

「シャンティ」通巻279号 2015年4月1日発行（1・4・7・10月の1日発行）
1985年6月28日 第三種郵便物承認

シャンティ Shanti

279 2015年4月
はる

特集
シーカー!

アジア財団の
新たな出発



タイのNGOとしてシーカー・アジア財団が
発足したのが1991年。

その間にタイは経済発展が進み、中進国と
なりましたが、スラムや農村での貧困、

教育問題はまだまだ続いています。

この課題にこれからも取り組むため、

シーカー・アジア財団は、本年3月から
運営面だけではなく財政面でも自立した
組織として歩みをスタートします。

これからは財団自ら日本とタイ国内での寄付を募り
事業を継続していく運びとなります。

シャンティのパートナーとして活躍が期待されます

Index

シャンティ 279号 目次

4 定点観測・アジアから

カンボジア／ラオス／ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ
アフガニスタン／ミャンマー

24 岩手／気仙沼／山元／東京

9 特集 シーカー・アジア財団の新たな出発

20 世界の絵本を読んでみよう

「竹笛の魔神と心やさしい家族」ミャンマー

22 シャンティな人たち

袴田淑子 株式会社ECON

28 シーカー・アジア財団のクラフト紹介

29 スタッフの昼ごはん

シーカー・アジア財団（タイ）

30 日本しやんていな旅

善隆寺

31 おしらせ／編集後記

32 道



地方の小学校の現状 建設予定地を訪ねて

報告：玉利清隆（カンボジア事務所）

カンボジア **Cambodia**

今年建設する6校の学校を選定するために、昨年11月にバットアンバン州及びバンテイミンチエイ州教育局から推薦された建設候補校から10校を視察に行きました。

カンボジアでは都市部の学校は整備されてきましたが、幹線道路から離れた田舎では、まだまだ状態の悪い校舎が多いです。カンボジア教育省が出しているデータによると、全国で約2万棟ある校舎のうち約3000棟が木造校舎で、床、屋根、壁等の状態が悪いと判断されている校舎は延べ1万棟を超えています。

実際にそれぞれの現場に行ってみると、建物の破損が激しく危険であるため屋外で授業が行われている学校、屋根はあっても壁がない校舎、教室を仕切る壁もないため黒板で仕切っている校舎、教室数が少ないため2クラスの児童を1つの教室にすし詰めにして授業を行っている学校など、子どもたちがまともに勉強できる環境にはない学校が数多くありました。

今年度建設する6校の選定は終わりましたが、まだまだ現場の学校建設の需要には追いつかない状況です。



次世代に伝えていくおはなし

Laos ラオス

報告：山室仁子（ラオス事務所）

ルアンパバーン県ヴィエンカム郡に伝わる民話を聞き取りに、いくつかの村を訪れました。同行したヴァンカム情報文化局長（写真中央）は同郡出身の54歳。

「村々に伝わるおはなしは、父母が子へ伝えていくもの。それは私が小さかった頃も今も変わらない。けれど、昔と違って今は若い人たちがテレビなど外から入ってくる情報に娯楽としての魅力を感じているようで、覚えられている民話が少なくなつたように思います。これまで口承でのみ伝わってきた民話をシャンティが絵本という形にして残してくれることが嬉しいのです。絵本になることで村の歴史や文化にまつわる話が次の世代を担う子どもたちにしつかりと伝わっていく。そのために絵本はとても良い方法だと思えます」。

ヴァンカムさんはこう語るうちに、この話が好きだったんだ、あの話が好きだったんだ、と子ども時代を懐かしむように嬉しい顔でいくつもの話をしてくれました。何物にも代え難い村の財産を守りたいと思った瞬間でした。



パキスタン難民の越冬支援活動を実施

Afghanistan アフガニスタン

報告：三宅隆史（アフガニスタン事務所）

昨年の6月以降、パキスタン・タリバン運動とパキスタン国軍の紛争が激化し、4万世帯、29万人がアフガニスタンに難民として逃れました。平均気温2度の厳寒期を難民が乗り越えるために、アフガニスタン事務所は、コースト州に逃れているパキスタン難民900世帯と、難民を受け入れている親戚や知人など100世帯の計7500人を対象に、1世帯あたり1.5カ月分の食糧、毛布7枚、鍋、ポットなどの調理器具を配布しました（写真）。

この支援によってパキスタン難民は3月上旬まで続く厳寒期を乗り越えることが可能になりました。

子ども6人と妻と一緒に国境を越えて逃れてきたモハマド・アナワルさんは、「私たちはどの組織からも食糧や毛布の支援を受けられませんでした。日本の人びとの支援によって寒い冬を無事に越せるようになって本当にうれしいです」と答えました。この事業は、ジャパン・プラットフォーム（JPF）を通じた外務省資金による助成を受けて実施しました。



図書館事業関係者が交流を深めました

報告：ナンタナー・ティンカジョン（トー）（BRC事務所）

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ **BRC**

1月中旬、メラ難民キャンプで図書館事業に関わる職員・図書館青年ボランティア計57人が参加した図書館交流活動を行いました。午前中は、サッカー・バレーボール・片足立ち走といったレクリエーションで交流を深め、昼食後は年間活動計画や事業全般に関して話しあいました。

「この活動は私たちキャンプ内スタッフにとって、とてもいい機会だったと思います。日々の仕事に関わる経験や懸念事項を共有できました」（ノー・ミイ・タン、図書館責任者）

「今日やったレクリエーションを、今度はキャンプ内の子どもたちに楽しんでもらいたいです。今年も、自信を持って楽しみながら、図書館青年ボランティアとして活動していきます」（アー・アク・トゥ、図書館青年ボランティア）

レクリエーションではリラクセスした雰囲気の中、多くの笑顔が見られました。今回の活動を通して築かれた協力関係が、今年の図書館活動・サービスの向上に繋がると信じています。





公共図書館に児童スペースが開設しました

報告：中原亜紀（ミャンマー事務所）

ミャンマー Myanmar

待ちに待った児童スペースがピー県の公共図書館6館にオープンしました。

図書館専門家による研修会終了から児童スペース設置までの約3カ月間、各公共図書館では読み聞かせ活動を開始し、子どもたちに本を身近に感じてもらうよう取り組んできました。その成果もあってか、児童スペース開設後にはすでに図書館に通い始めて来ていた子どもたちの姿が多く見られ、新しい空間と本を楽しんでいました（写真）。

パウンデ図書館のある女の子は毎日図書館に来て、自分で読むだけではなく、覚えたお話を他の子どもたちの前で話して聞かせているといいます。

図書館員は「初めて図書館に来るようになった子どもも、毎日通ってくる子どもたちにとってこの空間は魅力ある場所なのですね」と話してくれました。

「図書館員の存在が子どもたちを呼び寄せているのですよ」。

あまり実感が湧いていないようでしたが、図書館員にとって新たなスタートの始まりです。

シャンティのタイ現地法人として、シーカー・アジア財団は24年間、タイのスラムや農村、少数民族や移民労働者など、弱い立場に置かれた人びとに寄り添ってきました。その歩みと将来について、関係者が語ります。

特集
シーカー・
Sikkha Asia Foundation
アジア財団の
新たな出発

1980年代のスランブルー・スラム

タイ事務所の歩みとこれから



常務理事
シーカー・アジア
財団副理事長
秦辰也

今年3月、シャンティのタイ事務所として24年間その役割を果たしてきたシーカー・アジア財団(SAF)が、正式に自立することになった。ここで改めてその経緯を振り返ると共に、自立が何を意味するのか、今後のシャンティとの関係も含めて考えてみたい。シャンティの前身JSRC(曹洞宗東南アジア難民救済会議)がカンボジア難民救済を始めるにあたり、タイで初めて事務所を開設したのは1980年3月である。当時日本人会や日本国際ボランティアセンター(JVC)の事務所があったヤナワー区スアンブルー通りの奥まった所の一軒家を借り、活動がスタートした。そこには多くの短期ボランティアが出入りし、東へ約200キロ離れたサケオやカオイダン難民キャンプに通った。その後フィールド事務所も開設し、

徐々に常駐体制がとられた。筆者が赴任した1984年は、活動が幾分定着してきた時期であった。その頃から、本格的に東北タイの農村や、事務所近くのスアンブルースラムへの支援活動が始まった。

クロントイへの事務所移転

とりわけフォーカスされたのは、バンコクのスラムでの教育支援と東北コンケン県での移動図書館活動、そしてスリン県バーンサワイでの村落開発支援であった。84年暮れには「おはなしきやらばんセンター」と共同開催した人形劇の巡回公演活動がきっかけで、タイ最大のスラム、クロントイで活動するドウアン・プラティープ財団(以下DPE)との共同プロジェクト「クロントイキャラバン」が始まった。

シャンティは、スアンブルーでのコミュニティ図書館や保育園の設営に軸足を置きつつ、「クロントイキャラバン」活動を通じて当時DPEの事務所があったクロントイのパタナー共同体地区の移転を機に本格的にスラム問題に足を踏み入れた。そして1989年4月、新しく移転したクロント

つた。

共に歩む対等なパートナーとして

その後タイでは政変も続き、双方がめざしてきた資金確保の問題や人材育成は思うように進んだとは言いがたい。だが一方で、タイ経済は中進国へと発展し、今ではミャンマー、カンボジア、ラオスなど、近隣諸国から多数の移民労働者を受け入れるに至っている。

シャンティは公益社団法人となりミャンマーでの取り組みも始まった。SAFもシャンティの対等なパートナーとして運営面で自立し、タイ社会の問題を自らの力で解決していく時期に来たのだと理解している。確かにタイは、軍事体制下で国家として難しい時期にある。しかし、だからこそ困難な状況にある人々の側に立つSAFの存在理由が増すのだと考えたい。これからもシャンティと共に歩んだ歴史と精神を大切に、日本を含む国内外からの様々な形の支援と協力を得て、山積する課題に応えられる真の意味でのタイのNGOに成長して欲しいと願う。

イの70ライ地区の一角を借り、事務所や図書館、印刷・縫製の職業訓練も兼ねた研修センターを開設した。

タイ事務所の現地自立化をめざす

こうした中、懸念されたのはタイでのNGO登録の問題であった。当時のシャンティは任意団体であり、タイでの難民救済は許可されたものの法人格がなかった。そこで現地法人として設立されたのが、シーカー・アジア財団(SAF)であった。シーカーとは、パリー語で「教育」を意味する。運よく、当時タイでは民主化に伴いNGOの設立を緩和する政策が取られており、手続きもスムーズに進んだ。DPE関係者やベテランのタイ人スタッフの協力も得て、1991年9月にタイ内務省から財団法人として認可を受けた。

その後SAFはシャンティのタイ事務所としての機能を果たす一方で、徐々に運営の自立化をめざしてきた。例えば、タイ政府への補助金の申請や国内での募金活動などにも力を注ぐようになった。タイ経済も好調で、2006年ごろまで先行きは明るか

写真で振り返る SAF の歴史



湿地だったクロントイ周辺 (50 年前)



区画整理されたクロントイ70ライ地区 (1980年代後半)



タイ各地を回ったクロントイキャラバン



チュアバーン図書館の開館式 (1999年)



スアンブルー・コミュニティ図書館 (2000年代前半)

タイの子どもたちのために なすべきことを



シーカー・アジア財団事務局長：
アルニー・ブロンマー



1986年からシーカー・アジア財団で活動を続けてきたアルニー事務局長。タイ人として、クロントイ・スラム出身者として、タイの子どもたちに今必要なことはなにか、考えます。

はじめに

クロントイ・コミュニティ図書館は内装改修工事を終え、新名称「未来ブラリー」として昨年11月29日にオープニング・セレモニーを行いました。この改修は、日本からのご支援により実現しました。図書館を利用する子どもたち・住民に代わり、

心より御礼申し上げます。

最近のイベントについて

タイの「子どもの日」となった今年1月10日は、図書館の前に特設ステージを設置してイベントを開催し、約200人のスラムの子どもたちが集まりました。イベントでは、サムット

サーコーン県で暮らすミャンマーの子どもたちが参加し、伝統のダンスを披露してくれました。このような、タイ社会で暮らす移民労働者や少数民族の子どもたちが、自分の文化に誇りを持ち表現できる機会を、図書館のイベント等で増やしていきたいと考えています。

現在、特に力を入れている活動は？

昨年から、アウトリーチ型による移動図書館活動を、バンコクから車で40分ほどの距離にあるサムットサーコーン県マハーチャイ地区にて始めています。サムットサーコーン県は、バンコクに次いで移民労働者が多く暮らす県です。タイで暮らす移民労働者の子どもに関する問題は多様化しています。中でも教育に対する問題は深刻です。シーカー・アジア財団では、これまでタイ各県でミャンマー移民労働者の子どもたちに対し、移動図書館活動を行ってきた経緯があります。その経験を生かし、ミャンマー移民労働者の子どもたちへ活動を展開していく必要があると思われました。

「アジア子ども奨学金」の今後の方向性について

シャンティから「アジア子ども奨学金」を引き継ぎ、奨学金事業を実施していきます。これまでと同様にターク県、パヤオ県、バンコク・スラム地区を対象地域とし、今年度からはこれまでより18%増加した奨学金口数を支給していきます。

「タイの子どもたちのため」に なすべきことは？

図書館周辺のバンコク・スラム地域では、近隣諸国とりわけカンボジアからの移民労働者が増えています。そのため、図書館にもカンボジアの子どもたちが増えつつあります。こうした背景を受け、タイで暮らす近隣諸国の子どもたちが、母語に触れる機会を増やしていきたいと考えています。例えば、図書館

「未来ブラリー」ではクメール語やビルマ語、ラオス語の図書コーナーを設けました。また、当面の課題としては、本の数を増やしていくことが挙げられます。「中進国」と呼ばれるタイにおいても困難な状況に置かれている子どもたち、スラムで暮らす子どもたちや移民労働者の子どもたち、少数民族の子どもたちに対し、教育の機会を支援していくことは重要です。

シャンティから自立して事業を行っていきますが、ASEAN経済共同体(AEC)が本格的に始まる今年以降、これまで以上にシャンティの海外事務所とのつながりを大切にして、社会が抱える問題と向き合っていきたいと思えます。今後とも、応援のほどよろしく願います。

シーカー・アジア財団 年表

- 1980 3 バンコクにJSRCタイ事務所を開設。事務所内でカンボジア語書籍の印刷始まる。
- 1984 4 開発事業がスリン県バーンサワイ村で開始
- 1985 2 バンビナイラオス難民キャンプでの印刷活動開始
- 1991 9 タイの法人格を取得し、シーカー・アジア財団を設立。職業訓練事業(印刷、縫製)開始
- 1995 1 ルーイ県、パヤオ県で学生寮事業を開始
- 1989 4 クロントイ・スラムに職業訓練センター開設
- 1991 9 タイの法人格を取得し、シーカー・アジア財団を設立。職業訓練事業(印刷、縫製)開始

- 1998 1 クロントイ・スラムでグリーン&クリーンプロジェクト実施
- 1999 1 チュアバーン、スアンブルー・スラムで図書館、保育園を開園
- 2000 10 クロントイ・コミュニティ図書館を開館
- 2003 1 パヤオ県で保育園、図書館、教員寮が完成
- 2003 2 スリン県で保育園開園
- 2004 4 スアンブルー・スラム火災、保育園及び図書館焼失
- 2005 1 インド洋大津波による被災地(バンガー県)での救援活動・復興支援活動開始
- 2006 5 バンガー県でブルックティアオ図書館が開館
- 2007 1 ターク県でミャンマー移民学校を中心に図書館活動による教育の質の改善事業を開始

私たちの ミッションを 達成するために



シーカー・アジア財団理事：
タナイ・チャリンサン

タイでSAFを設立以来、NGO関係者や事業地域の住民リーダー、学校関係者、専門家などこれまで様々な立場の方が理事として組織運営に加わり、陰日向になって日頃の活動を支えてくれている。ここでは2011年からポンサン・ハティラット理事長と共に運営面でアドバイスいただいているタナイ・チャリンサン氏に今後のポイントをご指摘いただく。

タナイ理事は、チュラロンコン大学卒業後、アメリカとオーストラリアでIT（情報技術）を学び博士号を取得。現在は経営コンサルタント兼チュラロンコン大学講師としてビジネス戦略等を教える若手リーダーである。

シーカー・アジア財団(SAF)は、バンコクのスラムや農村で教育の機会に恵まれない子どもたちを支援するという価値ある目標を掲げています。この目標を達成することが、結果としてタイの社会問題の解決につながると思っています。SAFが子どもたちをしっかりと支えることで、タイの未来を担う子どもたちの生活がよりよいものになっていきます。

もちろん、タイには他にも様々な教育NGOが存在します。従ってSAFは、こうしたNGOと切磋琢磨しながら子どもたちのためにより献身的に活動し、ご支援者からのサポートを最大限有効に活用させていただきつつ社会のために役立っていくことが最も重要なミッションです。

2015年、SAFはタイの教育NGOとして以下の点についてさらなる強化を図

り、より積極的に活動に取り組んでまいりたいと思っています。

どを行っていきます。

1 日本のご支援者からの寄付金手続きの円滑化

日本のご支援者がタイ国内の銀行口座に海外送金をしなくてすむよう、日本にSAFの銀行口座を開設し、円滑にご支援いただけるシステムを整えていきます。

2 より多くの奨学金ご支援者の募集

バンコクのスラムや北部の山村に住む困難な状況にある子どもたちへの奨学金は、まだまだ不足しています。教育機会の拡大をめざすために、さらなる奨学金の支援者を募っていきます。

3 より多くの市民への働きかけ

様々なメディア媒体を活用し、より多くの方々にSAFの教育活動やタイの子どもたちが抱える問題をお知らせしていきます。ご支援者には年2回の広報誌や動画などを通じてご報告し、またご協力を呼びかけるための募金箱の設置やイベントの企画な

4 図書館活動の充実化

より多くの子どもたちに常設図書館や移動図書館を利用してもらうため、これまで以上に充実した活動を推進していきます。

5 リサイクル品の受け入れ

募金や指定寄付の代わりに、タイ国内で不用になったリサイクル品を受け入れていきます。ご提供されたリサイクル品は換金し、SAFの活動資金として活用させていただきます。

SAFは、ご支援者のご要望にお応えしつつ上記の項目を重点的に強化することで、より多くの子どもたちに利益をもたらし、ひいては私たちのミッションを達成することが可能になると考えています。どうか今後とも引き続きご協力の程、心よりお願い申し上げます。

- 2008 2 スアンブルー地区で図書館とシーカー・アジア保育園を再建
- 2011 1 SAF自立化5周年計画開始
- 2014 6 マハーチャイ地区(サムットサーコーン県)でミャンマー移民学校で移動図書館活動開始
- 2015 3 SAF理事会にてシャンティ会長、SAF理事長による覚書調印。新しい一歩がスタートする
- 2011 10 タイ大洪水によりバンコクと周辺県での緊急救援活動
- 2014 6 マハーチャイ地区(サムットサーコーン県)でミャンマー移民学校で移動図書館活動開始
- 2015 3 SAF理事会にてシャンティ会長、SAF理事長による覚書調印。新しい一歩がスタートする



ターク県での移動図書館活動



奨学金授与式



奨学生の家庭訪問を行っている

(すべて写真：瀬戸正夫)

奨学生からの お礼のことば

ケートサラー・カムデーング



皆さま、こんにちは。
私はルイイ県の奨学生だったケートサラー
ポーン・カムデーングと申します。2014年
にルイイ・ラーチャパット大学教育学部英語
学科を卒業しました。

私は中学2年生からシーカー・アジア財団
の奨学金をもらっていました。ルイイ県に
あった学生寮で多くの友だちを得て、ブン
ラート先生と一緒に様々な活動に参加しま
した。田を耕し、家庭菜園を作ることなど
です。そして、日本に渡航経験のある先輩
から日本語を教わりました。奨学金がなか
つたら、学校を辞めて学費のために働いて
いたでしょう。実際大学生の時には、長期
休みにバンコクの工場、大学でアルバイトし
ていました。

どう恩返しすればいいか、私はタイ国と
社会のためにいい人になり、学生たちに多
くの知識、いい経験を教えるつもりです。
こんな私にチャンスを与えてくださって、心

より御礼申し上げます。進学機会を与えて
くださった皆さまがいなければ、ここまで
これませんでした。

アシスタント教員採用試験には不合格でし
たが、どうしても教員になりたいので、来
年の試験に備え、働きながら試験勉強をし
ています。ホテル会計のアルバイトと親戚
の家政婦もしています。それでも不合格だ
つたら、遠隔地や山にある学校へ子どもた
ちに教えに行きたいと思います。教員とし
て、他人のためにがんばるのは私の意志で
す。ゆくゆく大学院(修士課程)に進学したい
と望んでいます。

先輩たちに出会うと心が温かくなるのを
感じていました。そして、バンコクのスラム
を視察し、環境問題が多いのに驚きました。
ここに住んでいる奨学生たちも応援します。
支援者の皆さまのご多幸とご健康を心よ
りお祈り申し上げます。ありがとうございます。



理事長から 日本の皆さまへ ごあいさつ

シーカー・アジア財団理事長：
ボンサン・ハティラット
(ケート)



日本の皆さまへ

シーカー・アジア財団を代表しまして、
シャントイを通じて当財団を支援してい
ただいている日本の皆さまに心からの御礼を
申し上げます。

皆さまからいただきましたご支援のお陰
で、当団体はバンコクのスラム地区、また
はその他地域で生活する教育機会に恵ま
れない子どもたちに支援活動を行うことが
できます。

今後も引き続き、皆さまからの温かい支
援をいただくことで、当団体の活動をさら
に充実させ、また未来ある子どもたちへの
継続した支援活動を展開していくことが可
能となります。皆さまのご理解に感謝いた
します。

上下3つとも学生寮での生活
(すべて写真：瀬戸正夫)



As the President of Sikkha Asia Foundation, I would like to express my deep gratitude towards the Japanese people who have kindly donated to Sikkha Asia Foundation via SVA. Your donation has allowed us to carry out our activities to support the education of underprivileged Thai children both in the slum of Bangkok and in other provinces. We hope that we will continue to receive your support in the future so that our activities that are of great importance to children's lives can continue.

Phonsant Hathirat



タイ中進国の模索

末廣昭 (岩波新書)

1990年代以降、高度成長を遂げながら、クーデターを繰り返すなど、わかりにくいタイの政治経済を社会の変化に関連づけながら分析した。1980年代後半以降のタイ社会の流れを知る上で、最良の一冊。



都市を生きる人々

—バンコク・都市下層民のリスク対応

遠藤環 (京都大学学術出版会)

大都市バンコクに数あるコミュニティの中でも、シャンティとシーカー・アジア財団の長年の活動地スアンブルー・スラムを対象に「居住」と「職業」の視点から徹底調査した本。コミュニティの潜在力が窺える。



タイの医療福祉制度改革

—王朝時代から現代まで

河森正人 (御茶ノ水書房)

2002年のタクシン政権時代、「30パーツ医療制度」が導入された。東南アジアの農村に多い「排除された多数者」のための社会保障改革の波及を念頭に、制度化のプロセスや分権志向などに着目し分析している。



シーカー・アジア財団 自立化に際して



事務局長：
関 尚士

タイの教育開発のため取り組みを続けてきたシーカー・アジア財団。2015年3月を機に、自らの力で社会課題を解決していくNGOとなるため、次なる一歩を踏み出していく。

シャンティの原点であるカンボジア難民の救済活動が始まったのは、当時キャンプが設置されていたタイの東北の地だった。その周辺農村では難民キャンプさながらの厳しい生活、貧困にあえぐ暮らしが広がり、難民を生み出した根本に横たわった問題、南北問題の象徴がそこにあった。以来、タイの農村、そして都市スラムの人びとの自立支援に向けた開発協力がスタートしていく。

コミュニティ図書館、移動図書館、保育園、学校農園、奨学金・奨学生寮の運営といった教育プロジェクト以外にも、失業と労働力の流失を解決するため小規模灌漑、職業訓練も技術もないところから試行錯誤を繰り返して生み出してきた活動である。日本の人びとからの支え、日本人職員や専門家による働きがあったの取り組みではあったが、そこには村で、スラムで生きる人びとが常に中心として存在していた。何が問題で、何が必要とされ

BOOK GUIDE

もっとタイを知るための6冊



アジアの市民社会とNGO

秦辰也 (見洋書房)

変化の激しいアジアの国々にてこの20年に拡大している市民社会の流れを日本の国際協力NGOや対象国内の現地NGOの動きからとらえ直す。各国におけるNGOの役割と市民社会の動きに焦点をあて、アジア社会が今日抱えている諸問題を解決していくために何が必要なのか、検討し提言を試みる。



バンコク燃ゆ

—タクシンと「タイ式」民主主義

柴田直治 (めこん)

著者は2005年から朝日新聞アジア総局長としてバンコクに駐在。2006年のクーデターから2010年のバンコク騒乱まで、タイの激動とその背後でうごめく政治家のかけひきが描かれている。



物語タイの歴史

—微笑みの国の真実

柿崎一郎 (中公新書)

周辺地域や世界史との関係を踏まえながら、古代から現代に至るまでのタイの歴史を新書サイズでコンパクトにまとめた一冊。

ているのか。考え、実際に形作っていくのは、彼らタイ人自身だった。

1991年、タイ事務所はシャンティとして初めてとなる現地法人化を果たす。タイの人びとのための、タイの人びとによるNGOとなることを選択した第一歩だった。

貧困や機会の不均等は様相を変えながらも消えゆくことがない。そのような現実を前に、シャンティの活動のゴールを判断していくのは極めて難しいといえる。事業レベルで掲げた目標のもと、一定の役割を果たし、取り組みを収束するのも出口の在り方の一つである。同時に、確かな意志を持ち、今後も続く社会課題に対して、必要な力を身につけていこうとする人びとがいるとしたら、自立した組織を作るまでをゴールとするのも、もう一つの選択肢であると考ええる。

シーカー・アジア財団が新たに歩み出した一歩は、シャンティ、そしてその活動地の今後にとっても重要な意味を持つだろう。これからは「共に学びあう」パートナーとして、タイ国内、延いては近隣のアジアの国々の中に図書館事業、幼児教育分野の先駆的役割を担っていくことを期待したい。

シャンティな 人たち शांति

vol.
68

株式会社ニコン

袴田淑子
はかまた・としこ

奨学生の家庭を訪問。左が袴田さん（写真：瀬戸正夫）



デジタルが主流の昨今、写真を紙に焼いてしみじみ楽しむ習慣は遠くなりつつある。けれど、写真は紙焼きされてこそ本来の魅力を発揮するもの。そう実感させてくれる取り組みがある。

「コーンクワン・チャーク・ニコン（ニコンからの贈り物）。就学支援「ニコン・シャンティ奨学生制度」の一環として行われている（奨学生たちに家族や友だちなど大切な人たちの写真を贈るプロジェクト）（写真上）である。

「いまや、写真を画面上で眺める人がほとんどですよ。でも、紙に焼いて額装すると、本当に綺麗なんです。一枚の写真を、何度も、一人ではなくみんなで眺めれば、思い出も記憶もいつそう鮮やかになる。このことを私は社内の写真講師に教えてもらいました」

そう語ってくれたのは、ニコン経営戦略本部CSR推進部社

会貢献室CSR推進部長の袴田淑子さん。このプロジェクトを提案したご本人である。支援先であるターク県の農村を訪問した袴田さんは、文明に取り残されたかのようなその暮らしぶりに強い衝撃を受けたという。

「天井も床も葉っぱのようなものでできていて、穴から空が見えたりする。そんな環境でも、一生懸命に、喜んで勉強している子どもたちの姿に感銘を受けました。また、籠づくりで生計を立てているご家庭を訪ねた時には、価値観が私たちと全く違うことに心底驚きました。素敵な籠を前にして「ぜひ欲しい！おいくらですか？」と一行が口々に尋ねると、圧倒されたのか「あげますよ」と。彼らは無欲で慎ましやかな心は美しいと思います。一方で、格差、貧困の連鎖をなくすためにも、次世代の子どものための教育は重要であると痛感しました」。

1990年代、コスト競争力強化と事業拡大に臨みタイのアウトヤに工場を建設し、徹底した日本品質の実現に挑んだ。タイ人の働きぶりはニコンの成長に大いに貢献し、今では製造管理責任をタイ人の幹部社員に任せるまでになっている。

「2006年にCSR推進活動を本格的にスタートし、社会貢献プログラムを検討していた時、役員から『ニコンの成長を支えてくれたタイの人々に恩返しをしたい』という意見が届きました。そうして出会ったのがシャンティさん。長年に渡る実

績だけでなく、奨学生へのきめ細やかなサポートや、どのように予算を使っているのかをきちんと説明して下さる点でも信頼しています」。

「信頼と創造」を永遠の企業理念に掲げ、「良き企業市民」として社会貢献活動に取り組む。そんなニコンの基本姿勢こそが、世界に誇るニコン品質を作り上げていくのかもしれない。

（文：藤原千尋）



上：奨学生へ「ニコンからの贈り物」フォトフレームを手渡す（写真：瀬戸正夫）

下：社内での「SVAクラフト・エイド」販売会は社員の交流の場ともなっている（写真：ニコン）



海と生きる

Japan 気仙沼

報告：笠原一城（気仙沼事務所）

1月5日、「はまわらす」プログラムに参加経験のある小学6年生が集まってもらい、今年の夏のプログラムを考えてもらう「子ども作戦会議」を行いました。

「夏は海で素潜りやサーフィンをしたい！」

震災当時は考えられなかった「海で遊ぶ」ということが子どもたちから提案され、海との関わりが戻ってきていると感じると同時に、会話の中では津波が姿を現し、当時の黒い海を思い出しているようでした。

この子たちにとって、どれだけの恐怖だったのだろうか。

いまだに海に近づくことが出来ない人たちが多く中で、どのように解釈し、また海で遊ぼうと思ったのだろうか。

子どもの成長を通じて、実は私たち大人が「海と生きる」事を学んでいる。そう感じる日々です。

この春入園した幼稚園児は、震災後に産まれた津波を知らない世代です。津波を知らない子どもたちに、海との暮らしを伝えて行くにはまず私たち大人の意識の変化が必要と感じています。



思いをつなぐ三陸鉄道

岩手 Japan

報告：村中一欽（岩手事務所）

一度は廃線の危機にさらされたJR山田線ですが、岩手県内の宮古～釜石間（55.4km）をJR東日本が復旧し、運営は三陸鉄道（写真）に移管することが決定しました。復旧費は総額210億円、140億円はJR負担、70億円は国の震災復興交付金です。

私も高校生の時はJR山田線で通学しており、震災後、学生やお年寄りにはバスを頼って生活をしなければなりませんでした。

月日が経っても復旧の目途は立たず、切断された線路を見る度、見捨てられてしまったのかという思いが消えることがありませんでした。しかし復旧のニュースを聞き、ほっとしました。友人は赤字路線だし、*RTがより利便性があり次の災害が起きた時にも復興道路として機能するという意見の人もいます。（*RT…専用道などを備えたバス高速輸送システム。東日本大震災により被災したJR気仙沼線・柳津・気仙沼間、JR大船渡線・気仙沼・盛岡で運行している）

復旧されるということは、震災前と同じ生活ができるようになるという未来に一步近付きます。なぜ鉄道にこだわるのか。次の世代の子どもが安全に暮らせるための道を作っていくことが大切だと思います。





シャンティ冬のチャリティコンサート

Japan 東京

報告：清野陽子（東京事務所）

シャンティの設立記念日にちなみ、2014年12月4日、東京YWCA会館カフマンホール（東京都千代田区）でチャリティコンサートを催しました。

シャンソンは、文字の読み書きに不自由している人が多かった中世フランスで生まれた音楽といわれています。吟遊詩人が村の様子や騎士の物語を伝えていったのがルーツだとか。当会の活動とシャンソンのルーツは重なる部分が多くあることから企画しました。

「百万本のバラ」「パリの空の下」「パダン・パダン」などシャンソンの名曲に、105人の来場者を迎えた会場は盛り上がりました。歌のあいまには「物語でつたえていくこと」と題して、歌手の日高あいさんと茅野俊幸専務理事のトークで、「物語」を伝える本と音楽とのコラボレーションをお楽しみいただきました。

ご多忙の中、日高あいさん、ピアノの今野勝晴さん、ベースの渡邊匠さんが当団体の趣旨にご賛同いただき、ご出演にご快諾いただきました。ありがとうございました。

そしてコンサートにご参加いただいた皆さまに、心より御礼申し上げます。



心を通わせるササエアイ

山元 Japan

報告：古賀東彦（山元事務所）

ササエアイ。山元町でそう聞けば、支え合いよりも町内で活動するNPOささえ愛山元を思い浮かべる人が少なくありません。

正式名称は特定非営利活動法人住民互助福祉団体ささえ愛山元。東北の福祉系NPOの中でも地域福祉のお手本といわれることもある団体で、「面倒見がよい中村恰子理事長（写真）にはお世話になった」と、東日本大震災の発災直後から、その身を案じるさまざまな支援が寄せられました。

震災で大きな不幸に見舞われた中村さんですが、ボランティアの真摯な姿を目の当たりにする中で、自らもスタッフと一緒に物資を避難者に配って歩いたり、仮設団地の集会所でパラソル喫茶「お茶っこ」を開いたり精神的に動き、結果、自身が元氣を取り戻していくのを実感したそうです。

シャンティ山元事務所では、ささえ愛山元が地域住民のために開いているサロン活動のお手伝いをする中で、中村さんとのお付き合いが始まりました。一方通行ではない、心を通わせるササエアイの大切さをいつも教わっています。

これがワタシの
チカラになる!



スタッフの昼ごはん



経理 トップさん
 奨学金事業 ヒアさん
 総務 プラーさん
 国際部 吉田さん
 経理 オイさん
 経理 オンさん

シーカー・アジア財団の職員さん、
今日の昼ごはんはなんですか？

写真：瀬戸正夫



焼いたナマズ

シーフード入り
しょう油炒め麺

ひき肉のバジル
炒めのせごはん

タイ・ラーメン(チャー
シュー入り中華麺)

トムヤム味春雨

サワディカー(こんにちは)、経理のオイです。シーカー・アジア財団のお昼ごはんは、一皿料理が多いです。食べた料理をお手伝いさんに頼み、事務所近くの注文屋台で買ってきてもらいます。日本の方も好きなイサン料理(東北タイ料理)のソムタム(パパイヤ・サラダ)やラープ(豚ひき肉などをタイのハーブと和えた料理)、またもち米を頼んで、みんなで食べることもあります。私が今日食べているものはパット・シーユ・タレー(しょう油炒め麺シーフード入り)で、よく食べる料理の一つです。あとは、ラートナー(あんかけ麺)もよく食べています。タイ料理は種類が豊富で、美味しいですよ。



ခက်ခက် နားထောင်
အဝေး-မာ-က-က-က-က-က
(とてもおいしいよ)

シーカー・ アジア財団の クラフト紹介



上：縫製センターの女性グループ
左：クラフト担当職員メー



マッドミー
ランチトートバッグ



ティッシュボックス
ケース



モン族・
大きな刺繍バース



クラフトで使用されている素材は、タイ国境付近の山岳地帯で暮らす少数民族によって手作りされたものが用いられています。これらの素材には、各民族のアイデンティティが施されており、その刺繍や織物には各民族の文化や生活の特徴が表現されています。また、タイ素材として定評あるコットンの布やシルクは、主にタイ北部と東北部の女性たちによって織られています。

このようなタイ各地から集められた素材を用いて、バンコクのクロントイ・スラムで暮らす女性グループが、ミシンをかけて一つ一つ手作りされるクラフトです。これがシーカー・クラフトです。刺繍ポーチ、バッグ等、様々な味わいあるクラフト作りを心掛けています。また、こういった活動は、女性たちの収入向上を目的としており、売り上げの一部は、シーカー・アジア財団が取り組む子どもたちへの教育のための活動資金となります。

これらの製品はシャンティのクラフト・エイドで購入できます。同封のカタログをご覧ください。

シャンティからのお知らせ

かこさとし先生とシャンティの コラボ一筆箋発売

絵本作家かこさとし先生がシャンティの活動に共感、イラストとメッセージを寄せてくださいました。そのイラストをかわいらしい一筆箋にしました。かこ先生メッセージおしりも付いたシャンティだけのオリジナル商品です。横書きで、万年筆でも使いやすいよう紙にもこだわりました。現在、ウェブサイトで販売中です。詳細は同封のちらしをご覧ください。発売を記念して、シャンティ読者の方限定5名様に抽選で一筆箋をプレゼントします。

【応募締切】2015年6月30日(火)

【応募方法】郵送もしくはメールで、お名前・ご住所・電話番号と、かこさとし先生や作品への思いを書いてお送りください。※お送りいただいた文章は広報物、ウェブサイト等で紹介させていただく可能性がありますのであらかじめご了承ください。当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

【応募先・お問合せ先】

〒160-0015 東京都新宿区大塚31 慈母会館2F
 シャンティ国際ボランティア会
 広報課 会員・アジアの図書館サポーター担当
 Email: ats@sva.or.jp



道傳愛子さん講演会

『マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』を翻訳されたNHK道傳愛子解説委員をお招きして、イスラム圏の女子教育についてお話いただきます。

■日時：4月26日(日) 14:00~17:00 (開場13:30)

■参加費：3,000円(税込)(ドリンク・軽食付。資料、軽食代として)

■会場：C&Rグループビル2階(東京都千代田区)

人事のお知らせ

●異動

長沢有華(契約職員) 緊急救援室より、ミャンマー事務所教育改善事業コーディネーター担当(1月1日付)

●職務内容の変更

岡本喜代一(嘱託職員) 国内事業課課長より国内事業課課長兼経営推進担当へ(1月1日付)

「シャンティ」にご協力ありがとうございます

フリーライター 藤原千尋さんに22ページ「シャンティな人たち」の取材、原稿執筆のご協力をいただきました。ありがとうございました。

編集後記

19ページのブックガイド、数多いタイ関連書籍から常務理事が選んだ本を紹介しました。複雑な背景のあるタイの政治はわかりにくいのですが、これらの本を読むと理解が深まります。専門知識の豊富な人材もシャンティの強みのひとつと実感しました。(清野陽子)

シャンティ 2015年春 279号

2015年4月1日発行

発行人 若林恭英
 発行所 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
 〒160-0015 東京都新宿区大塚31 慈母会館2・3階
 TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
 WEB: http://www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp
 郵便振替 00150-9-61724

編集人 関尚士
 装丁・レイアウト 矢萩多聞
 印刷 株式会社大川印刷 [定価550円]

©2015. Shanti Volunteer Association. All Rights Reserved. Printed in Japan.

●当会へのご寄付は、所得税、住民税および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



GREEN PRINTING JPMI P-B10164



ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C009309



「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。

日本 しゅんてい の旅

④ 大分県中津市

善隆寺



①善隆寺で開かれた「チャリティ寄席」 ②樹齢350年の幹をイチョウ観音として境内に安置 ③副住職の自覚大道さん「いざというときのため栄養補助食品を本尊への供物として常備してあります」

●善隆寺

大分県中津市伊藤田

●周辺のみどころ

福澤諭吉旧居 (中津駅から車で5分)
 青の洞門・羅漢寺 (中津駅から車で30分)
 宇佐神宮 (宇佐駅から車で6分)

●アクセス

JR中津駅から車で15分

2013年までシャンティに勤務していた自覚大道さんが副住職を務めるお寺です。副住職が東日本大震災以降、寺院防災にも取り組んでおり、お寺でできる対策として停電時の電源確保も考慮しての太陽光パネルや、断水対策も兼ねてエコキュートを設置しています。自覚大道さんはシャンティ在職時、仏教NGOネットワーク「寺院備災ガイドブック」に制作委員として携わった経験から倉庫にはトイレトーパーなどの備蓄や、伊方や玄海原発から100キ



ロほどの距離なのでガイガーカウンター(放射線測定器)も2台備えています。また、チャリティ寄席の開催や国際ボランティアの寺として支えていただいています。近くには、昨年の大河ドラマ黒田官兵衛が築城した中津城や、中津藩士の福澤諭吉が少年時代を過ごした福澤諭吉旧居。日本最古の五百羅漢が祀られている羅漢寺などがあります。そして、市内に50店舗以上ある、からあげ専門店めぐりもおおすすめです。

道

タイ社会の変化

常務理事 秦辰也はたもと

昨年末、シャンティに同時期に入職した手束耕治さんが定年を迎えた。30余年のおつき合いだ。1984年春、二人はタイの任務に就いた。朝は隣の食堂で香草の効いたお粥を食べ、夜は近くの市場で一杯10バーツのラーメンを注文した。トゥクトゥク（オート三輪）がけたたましく駆け抜ける街の喧騒は、鮮烈な印象だった。

翌年、バンコクでクーデタ未遂事件が起きた。プーミポン国王の下、当時のプレミアム政権は盤石だった。彼は88年9月にチャートチャイに首相の座を譲るが、その後は枢密院議員に就任。国家功労者（ラタブルツ）の称号を受け、98年から94歳になる現在まで議長職にある。

政権交代後の経済は好調だったが、91年にクーデタが発生。その反発から民主化運動が再熟した。同年、カンボジアは和平に向かい、インドシナ半島は転機を迎えた。スラム住民や東北・北部の農民らもこの動きを歓迎し、格差是正に希望が見えた。この時期、シャンティもカンボジアとラオスに事務所を開いた。

まもなく、ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジアがASEANに加わり、近隣もにわかに活気づいた。時代はタクシンを首相に押し上げ、政権は医療制度改革や農民向けの優遇政策などに着手し急速に票田を開拓した。だが、その政治手腕は一部の反対派や特権階級の逆鱗に触れ、あえなくクーデタで失脚。2006年9月のことだ。その後も混乱は長引き、昨年5

月にはまたもクーデタが執行された。

1932年の立憲革命以来、タイでは19回もクーデタが起き、12回が成功した。特に2006年以降は毎年政変に揺さぶられ、国民は辟易している。

年末年始、久しぶりにタイで家族と過ごした。街には高層マンションが林立する。屋台でラーメンを注文すると一杯40バーツ。長年据え置きだったタクシール料金も値上がりした。経済学に「中進国の罠」という言葉があるが、タイはそんな罠にはまっつてはいないか？ 経済発展に伴い国民間で格差が拡大し、政治が不安定化する構図だ。

諸行無常。近い将来タイの人々がこの罠を打ち破り、光と安定感のある社会に変えていくことを願ってやまない。

（近畿大学総合社会学部教授）



経済学に

「中進国の罠」という

言葉があるが、

タイはそんな罠に

はまっつてはいないか？